

# 令和6年度 飯塚市立筑穂中学校 学力向上プラン

## ■視点1-②

### 《中期目標（指標）》

未来を切り拓くための自己理解をし、仲間とともに試行錯誤しながら粘り強く学ぶ生徒  
(令和9年度の全国学力・学習状況調査の標準化得点 目標値 国語:101以上 数学:100以上)

### 《短期目標（指標）》 全国学力・学習状況調査の県平均到達と維持を目指す

(令和6年度の中学校標準学力検査において、県標準化得点(県比)国語105 数学110以上  
四分位層C・D層の割合の合計(県比)国語-6.0 数学-6.0 以下)

## ■視点5

**【家庭・関係機関との連携】**  
**〈取組（指標）〉**  
 ⑤学期に1回(年3回)「家庭学習週間」を設け家庭学習の取組を家庭と連携・協働する。(年に1回、中学校校区連携で行う。)  
 ⑤すべての学力検査・定期考査の結果と反省を家庭と共有するために計画表や成績ファイルに保護者のコメントやチェックもして頂き、保護者への周知、家庭での結果確認を促す。  
**〈成果（指標）〉**  
 ◆保護者による計画表チェック「目標をもって学習に取り組んでいた」3以上:4段階評定尺度

## ■視点2

### 【授業づくり】

[基礎基本の定着を目指した徹底反復学習]  
**〈取組（指標）〉**  
 ①③全教科、授業の導入で基礎・基本の定着のための時間を設け、授業のグランドデザインに沿った生徒が「わかる」、見通しを持った授業を実践する。  
 ① 毎朝10分間のGT(ガッツリタイム)で徹底反復学習を行い、基礎・基本の定着を図る。  
**〈成果（指標）〉**  
 ◆生徒による授業評価「授業がよく分かる」3以上:4段階評定尺度  
 ◆生徒によるGTアンケート「学習への意欲が出てきた」3以上:4段階評定尺度

[計画的・創造的授業実践による活用力の育成]  
**〈取組（指標）〉**  
 ② 活用力の育成を図るため、協調学習や書く活動などを全教科で取り入れたり、すっぽんチャートを利用して表現力を育成したりする。  
 ④ ICT機器を活用し、自分の考えをまとめたり、発表したりする場面を設定する。(学期1回以上)  
**〈成果（指標）〉**  
 ◆各種実力テスト無回答率10%以下(県平均以下)  
 ◆授業チェックリスト「学びの変容を自覚させるための工夫がなされている」3.5以上:4段階評定尺度

## ■視点4

**【教員の意識・指導力の向上】**  
**〈取組（指標）〉**  
 ③④授業のグランドデザインに沿った授業公開を行い、協議会の結果を全職員で共有する。(一人1回以上)  
 ③ 「授業のグランドデザイン」に基づく授業を行い、自己評価をする。(毎時間)  
 ①③児童生徒の学習状況を把握・検証するため「学力向上委員会」を実施(週1回)  
 ①④タブレット端末等を活用した個別最適な学びと、協働的な学びの実現を目指す。  
 ⑤ 小中合同の研修会の実施(年3回)  
**〈成果（指標）〉**  
 ◆生徒による授業評価「授業の終わりの方で、「分かったこと」などを自分なりに振り返ることができた。」3以上:4段階評定尺度  
 ◆授業チェックリスト「コンピュータや情報通信ネットワークを活用した学習がなされている」3以上:4段階評定尺度

## ■視点3

### 【学力基盤づくり】

**〈取組（指標）〉** ①GT(ガッツリタイム)の取組 ③⑤自学ノートの取組 ②学期始めの朝読書  
 ①定期考査の取組(「これだけは」の配布) ④プラスαタイムの実施  
**〈成果（指標）〉** ◆自学ノート提出率100%(家庭学習の充実)  
 ◆生徒による授業評価「授業の内容を自学ノートで確認できた」3以上:4段階評定尺度

## ■視点1-①

県学力調査、全国学力調査及び「授業評価アンケート」、「授業チェックリスト」等から見た「課題」											授業づくりや学力向上の取組に係る「要因」					
四分位層の県との差、標準化得点		国語					数学					標準化得点				
		A層	B層	C層	D層	A層	B層	C層	D層							
		R5 県調査														
R6 全国調査(県100)																
課題	・県学力調査(R5)国語において、「話すこと・聞くこと」、「読むこと」の領域に課題がある。 ・県学力調査(R5)数学においてはすべての領域で県を下回っているが、特に「図形」、「データの活用」に課題がある。また、四分位層ではC,D層の割合が県より多く、観点別では「知識・技能」に課題がある。 ・県学力調査(R5)において、無回答率が10%を超えた問題が国語で19問中10問(県10問)、数学が19問中10問(県9問)ある。 ・全国学力調査において、学習指導要領の領域における平均正答率で国語「書くこと」(67.4%)、英語「書くこと」(11.9%)に課題がある。 ・全国学力調査(R5)質問紙において、「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」(46.6%、全国比-8.4)に課題がある。											①授業における基礎・基本の定着が不十分。	②必要な情報を読み取り、根拠を明らかにして自分の考えを「書く活動」が不十分。	③授業の学習内容について、生徒による振り返りと家庭学習の内容が希薄。	④学力層を分析し、実態に合わせて個人の学びを深めさせる工夫が必要。	⑤中学校校区統一の取組及び家庭との連携が必要